

2026年3月期 第2四半期決算補足説明資料

2025年11月12日



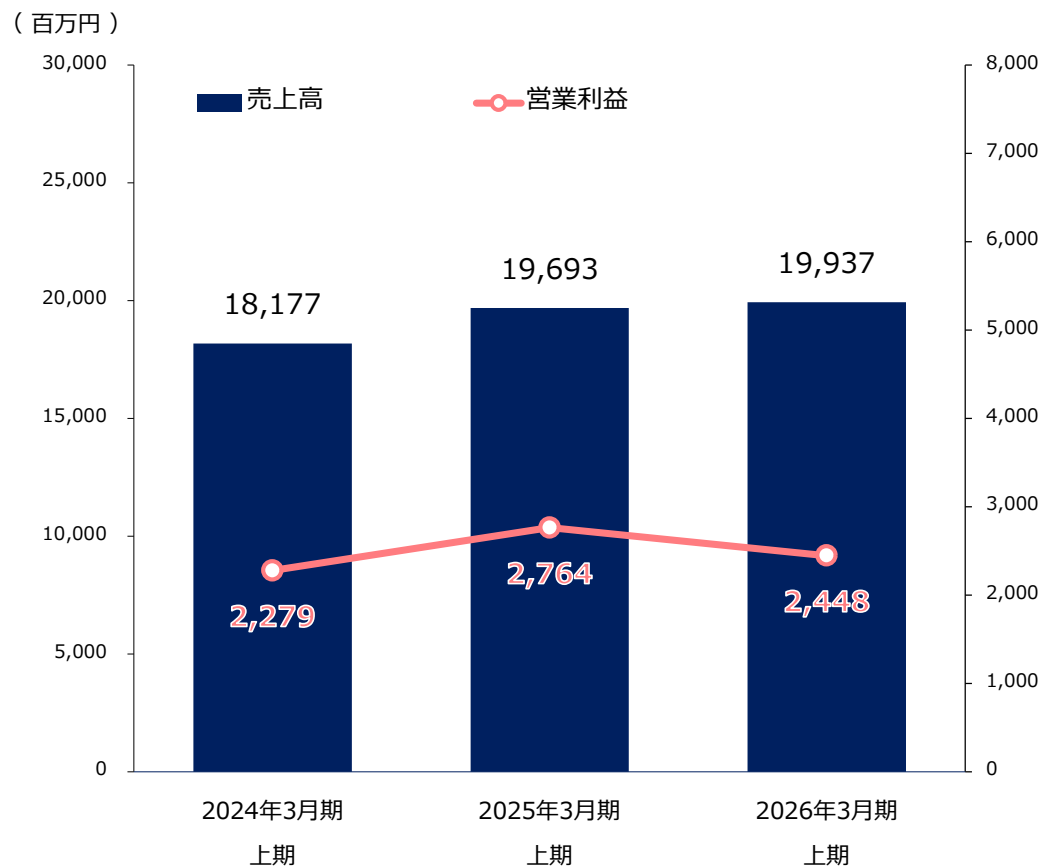
レオン自動機株式会社
RHEON AUTOMATIC MACHINERY CO., LTD.
証券コード（6272）

◆ 連結計算書サマリー

(百万円)	2025年3月期 上期実績	2026年3月期 上期実績	増減額	増減率 (%)	2026年3月期 修正後業績予想 (進捗率)
売上高	19,693	19,937	244	1.2 %	40,520 (49.2%)
営業利益	2,764	2,448	▲316	▲11.4 %	5,230 (46.8%)
経常利益	2,727	2,556	▲171	▲6.3 %	5,320 (48.1%)
親会社株主に帰属する 四半期純利益	1,889	1,710	▲179	▲9.5 %	3,600 (47.5%)
期中平均為替レート	USドル= 152.63 円 ユーロ= 165.95 円	USドル= 146.04 円 ユーロ= 168.06 円	—	—	USドル= 146.00 円 ユーロ= 168.00 円

※四半期ごとの計画開示は行っていないため、修正後業績予想に対する進捗率を記載しております

◆ 過去3年の業績推移



主な増減要因

- 前期比で売上高は増加、営業利益は減少
- 売上高への為替影響額▲431百万円
- 主な減益要因

売上総利益 ▲87百万円

広告宣伝費 +228百万円（欧米展示会費用増等）

USドル	140.99 円	152.63 円	146.04 円
ユーロ	153.38 円	165.95 円	168.06 円

◆ 食品加工機械製造販売事業・食品製造販売事業 《 事業別売上高・セグメント利益 》

食品加工機械製造販売事業

米国・アジア市場の販売は好調に推移したが、日本・欧州の販売は前期を下回った。

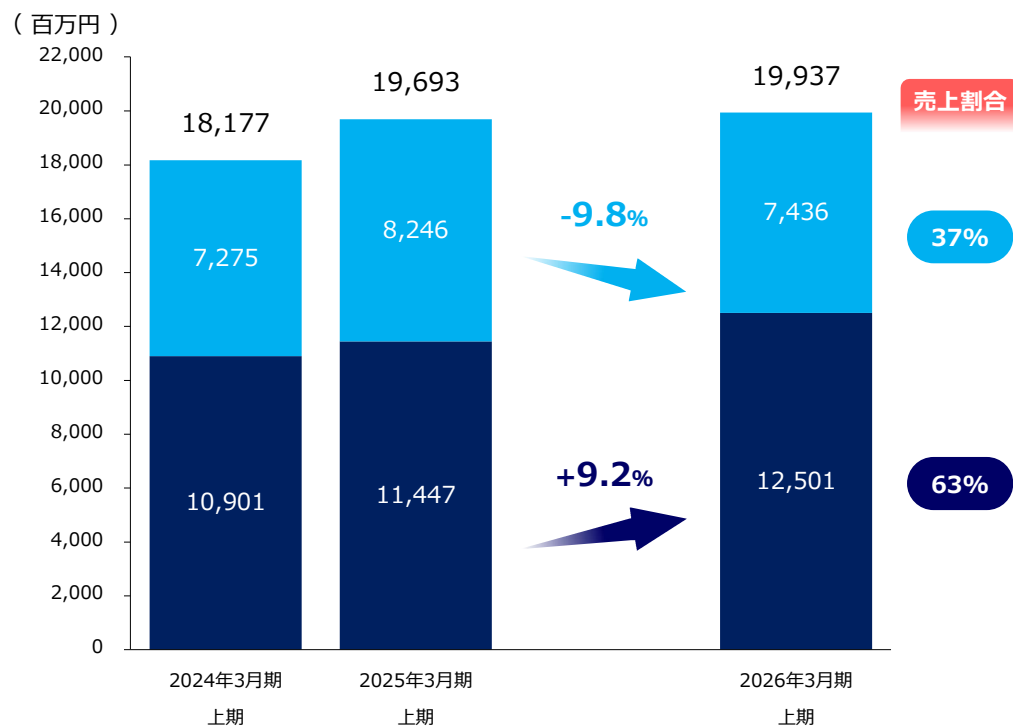
食品製造販売事業

米国における終売先の影響が続き、減収となった。

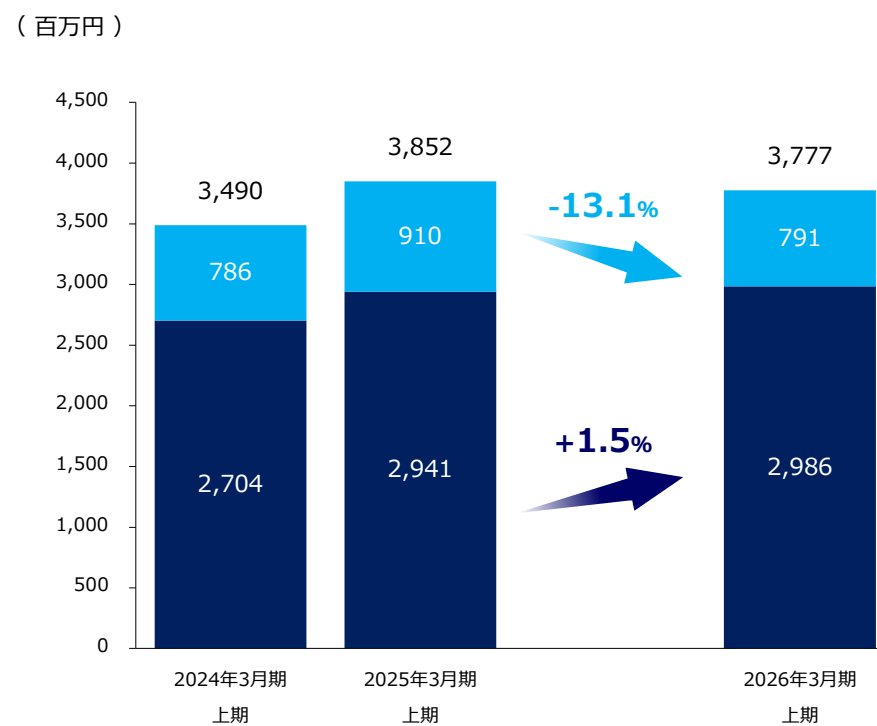
■ 食品加工機械製造販売事業

■ 食品製造販売事業

売上高



セグメント利益

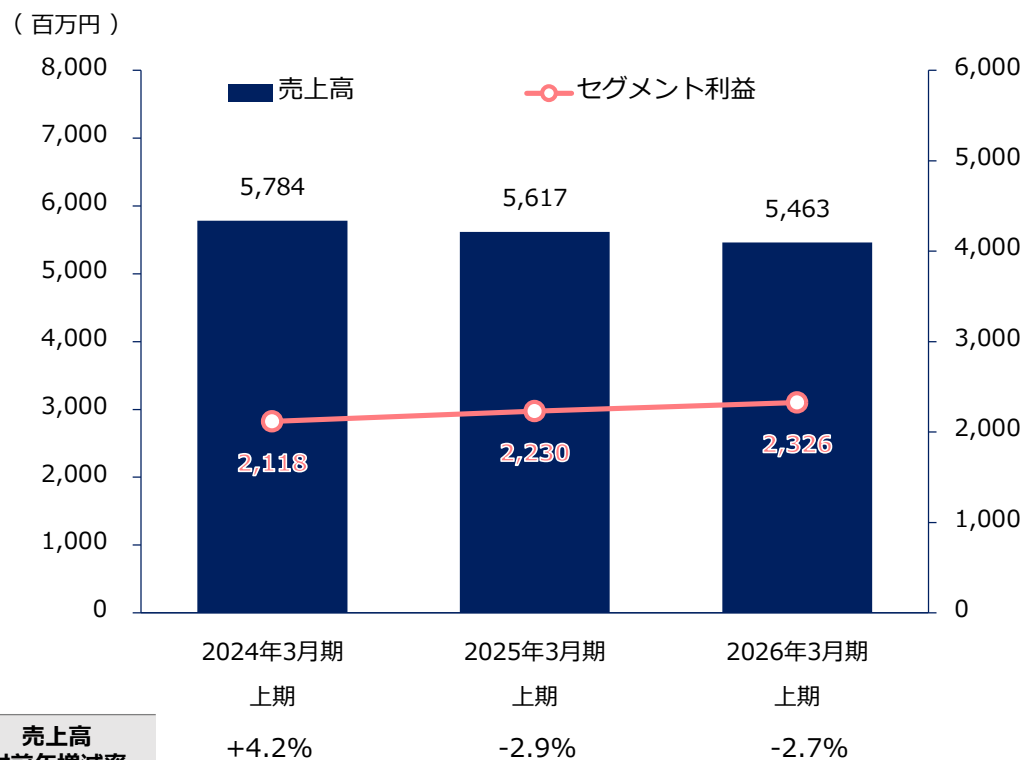


◆ 食品加工機械製造販売事業 日本 《 過去3年 売上高・セグメント利益 》

- 大型製パンライン等の好調な受注が継続し、食品成形機の売上減少をカバーして1Qの減収幅を縮小した。
- 下期納期案件は上期比で増加する予定であり、通期計画を達成する見込み。

売上高・セグメント利益

主な増減要因

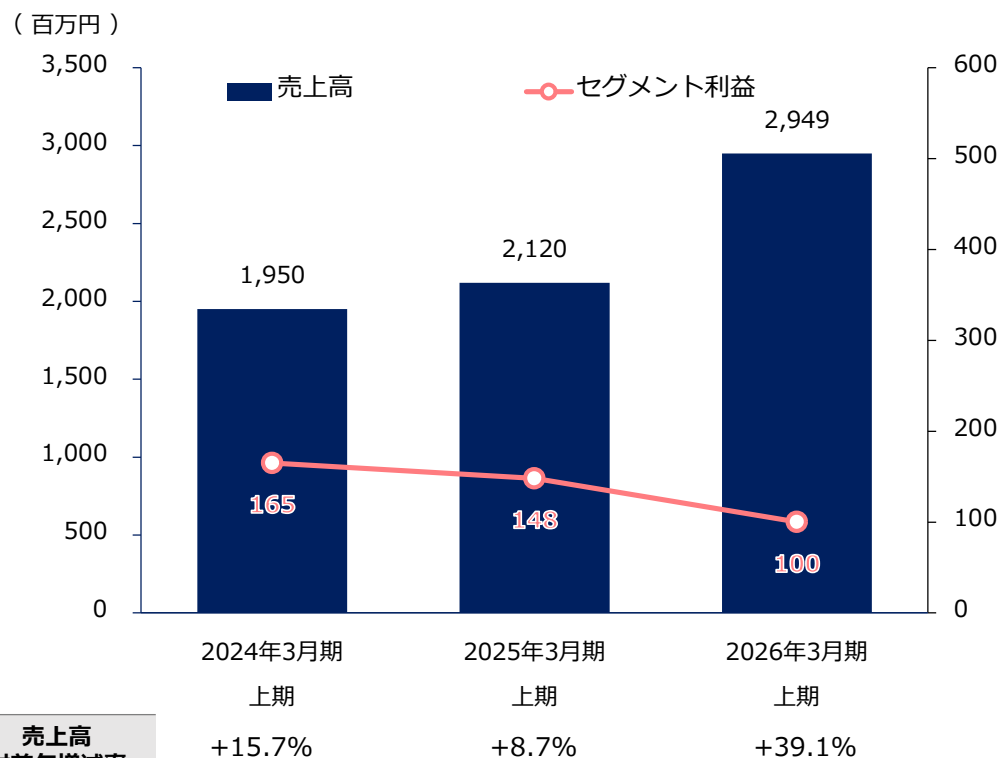


- 製パンライン等の需要は引き続き堅調
- 修理その他の売上は計画通りに推移

◆ 食品加工機械製造販売事業 北米・南米 《 過去3年 売上高・セグメント利益 》

- 製パンライン等においては、アルチザンブレッドやコンチャの生産ライン販売が引き続き好調で売上が増加。
- 製パンライン等の今期案件は確保できており、来期受注も順調に推移している。

売上高・セグメント利益



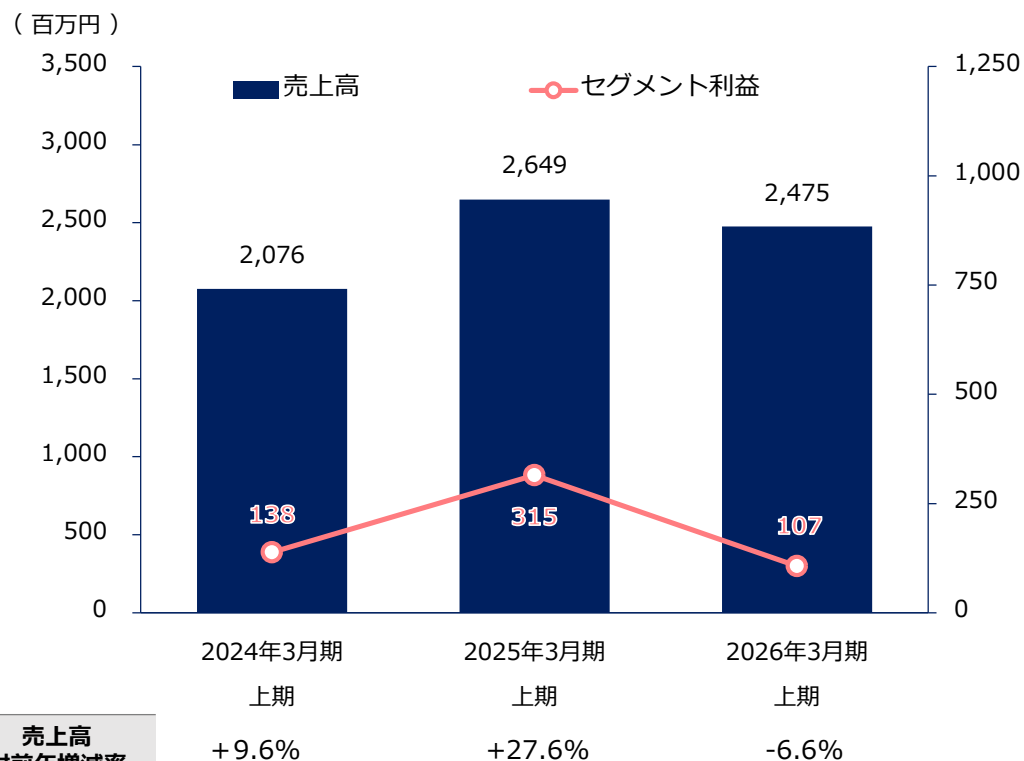
主な増減要因

- 現地通貨ベースでの売上高は
対前期比45.4%アップ
- セールスマックスによる売上原価率の上昇
- 大型展示会等の広告宣伝費の増加

◆ 食品加工機械製造販売事業 ヨーロッパ《過去3年 売上高・セグメント利益》

- 製パンライン等は小型製パン機の販売が好調を維持しており、下期計画分の受注をほぼ確保できている状況。
- 大型製パンライン等の下期納期案件が増加する見込みであり、通期計画は達成する見込み。

売上高・セグメント利益



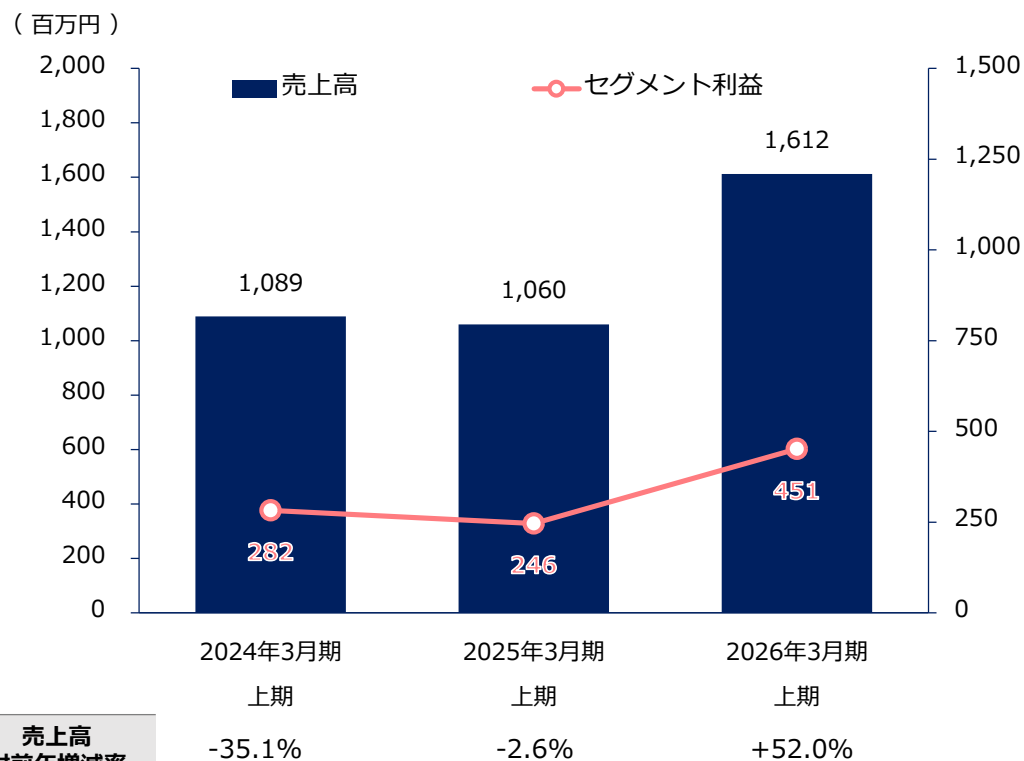
主な増減要因

- 東欧他の幅広い地域からの製パンライン等の受注あり
- 広告宣伝費および販売手数料の増加により減益

◆ 食品加工機械製造販売事業 アジア 《 過去3年 売上高・セグメント利益 》

- 大型製パンライン等、食品成形機の大口案件確保等により大幅増収となった。
- 下期納期案件は上期比で増加する予定であり、通期計画を達成する見込み。

売上高・セグメント利益



主な増減要因

- 韓国・台湾・ベトナムに大型製パンライン等の販売
- 東南アジアの食品成形機の売上が好調

◆ 食品製造販売事業 《 地域別売上高・セグメント利益 》

売上高

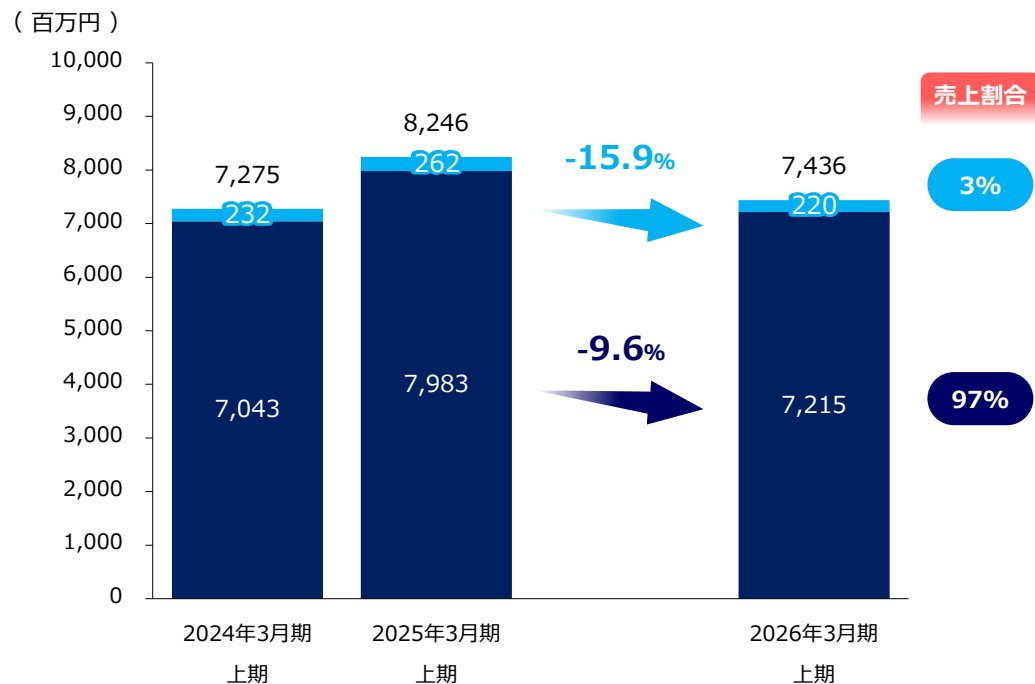
- 北米・南米 円高進行により大幅減収となったが、現地通貨ベースでは▲5.5%の減収。
- 日本 国内主要先の需要低迷により減収。

セグメント利益

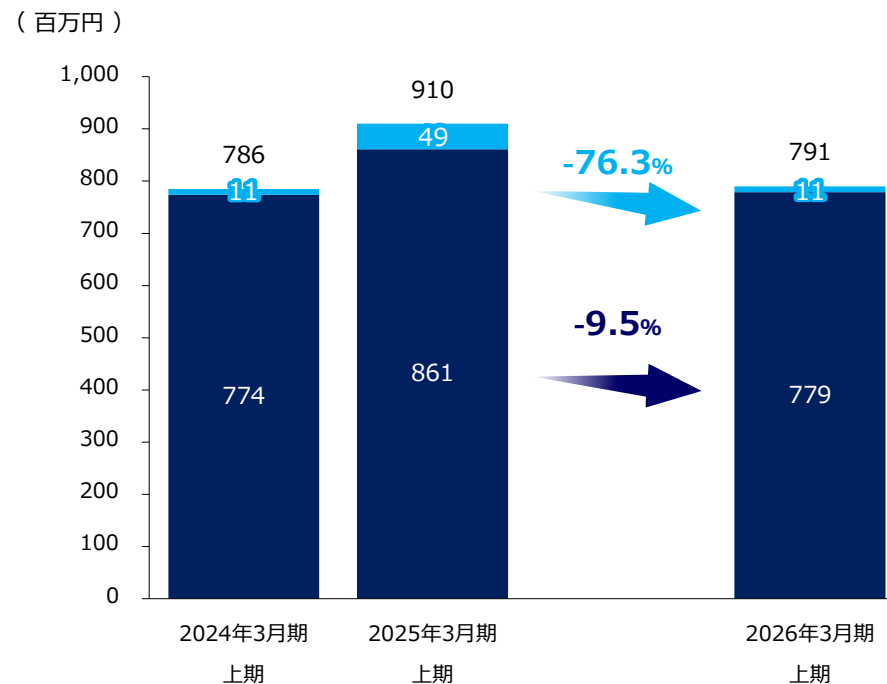
- 北米・南米 原材料費の上昇により営業利益率は10.8%に低下。
- 日本 売上大幅減収により利益水準も大幅に低下。

■ 北米・南米（オレンジベーカーリー） ■ 日本（ホシノ天然酵母パン種）

売上高

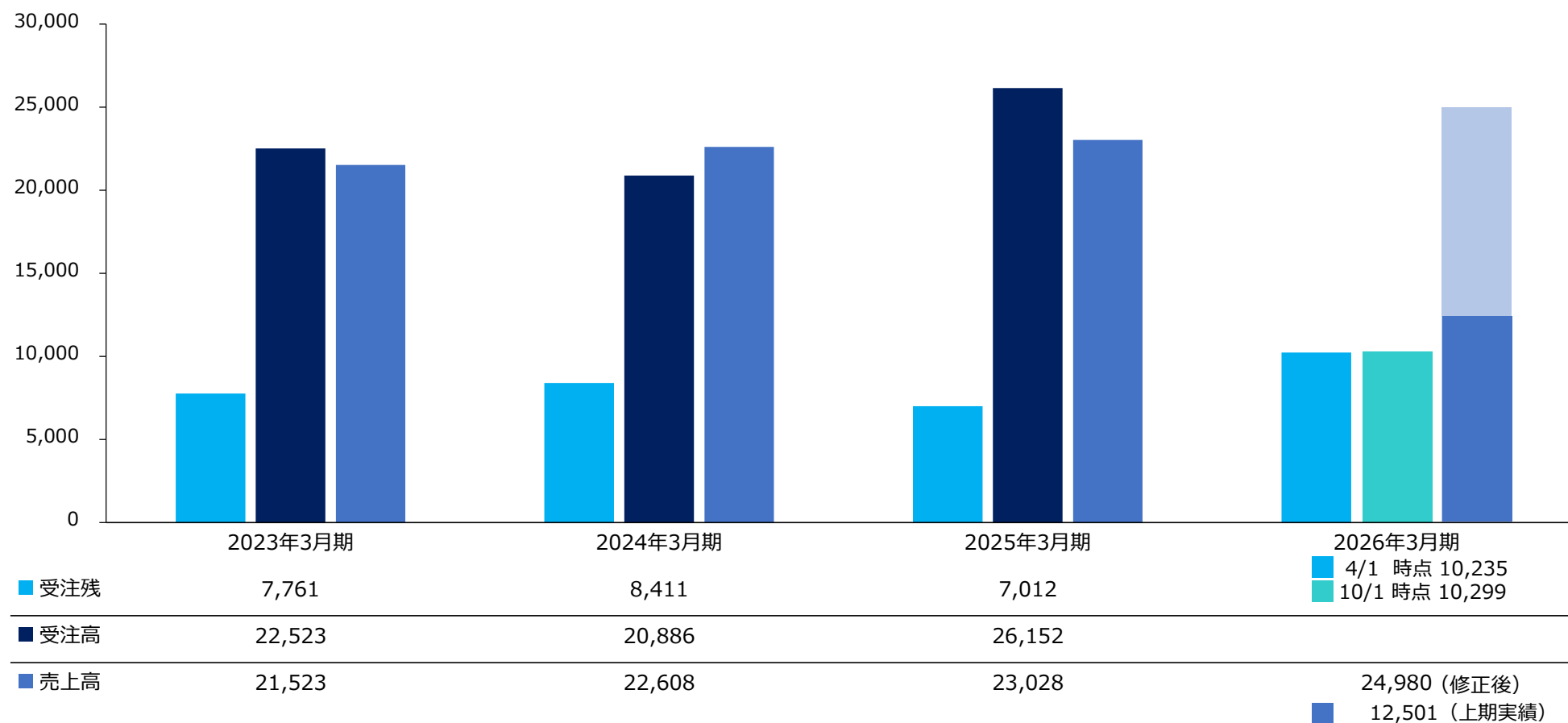


セグメント利益



◆ 食品加工機械製造販売事業 受注高・売上高・受注残の推移

(百万円)

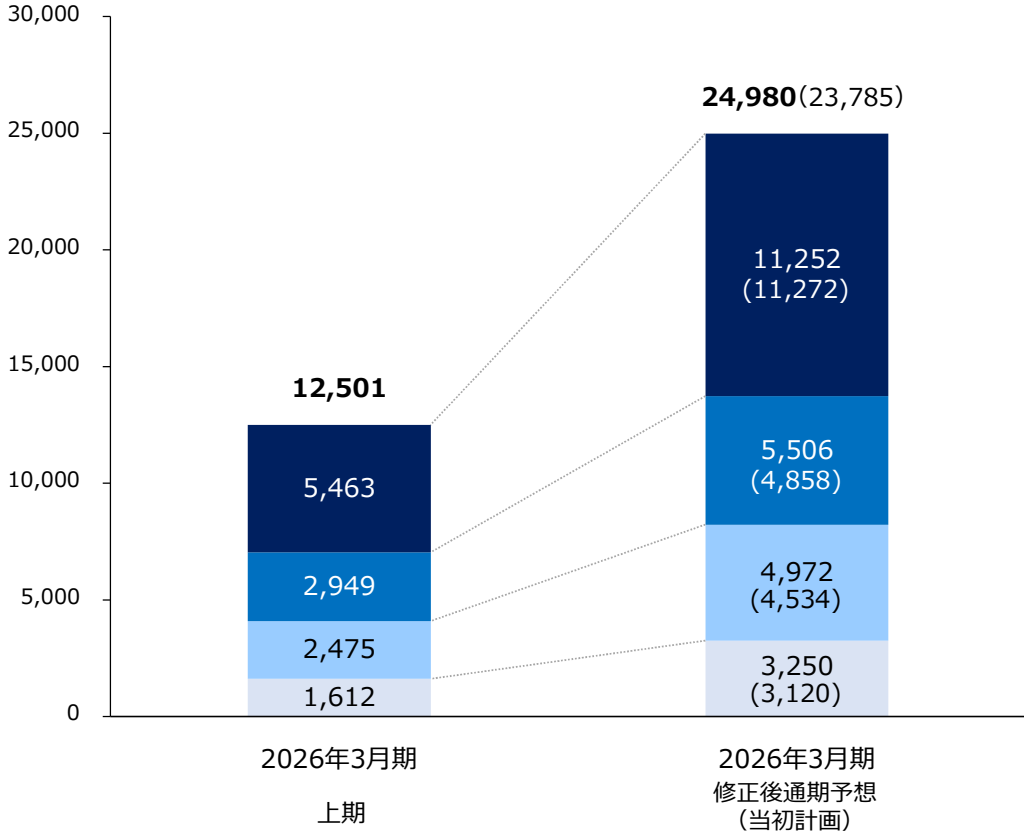


※受注残は4月1日時点

◆ 事業別業績予想 食品加工機械製造販売事業

売上高予想

(百万円) ■ 日本 ■ 北米・南米 ■ ヨーロッパ ■ アジア

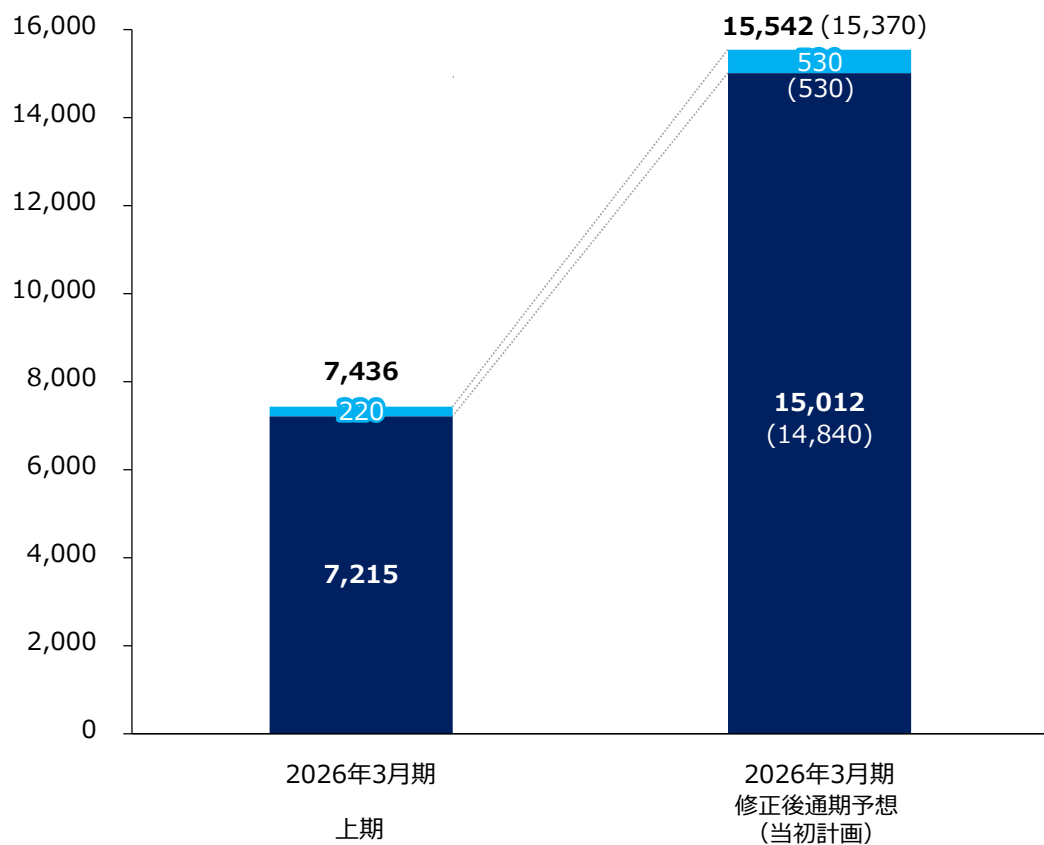


日本	- 大手メーカーからの設備更新需要は堅調に推移するものと予想 - 製パンライン等の下期納期案件が増加しており、通期計画達成を見込む - 食品成形機案件は「中小企業省力化補助金」を活用した回復を見込む
北米・南米	- 製パンライン等の好調な受注が継続 - 展示会（IBIE）での見込客へのアプローチを強化 - 人件費高騰や生産コスト削減に向けた設備投資需要は継続しており、来期受注案件を確保する
ヨーロッパ	- 主力の小型製パン機であるツインデバイダーの販売が堅調であり、ドイツ以外の地域での販売強化を継続 - 食品成形機では調理向け案件が増加し、修理その他の売上も計画通りに推移しており、通期計画達成を見込む
アジア	- 中国では下期に大型案件の売上を予定、また、食品成形機の販売も改善してきており、売上は前期を大幅に上回る見込み - 韓国・台湾・ベトナムに大型製パンライン等の受注があり、好調を維持 - 東南アジアでは包あん機の大口案件を受注するなど好調を維持 - インドマーケットでは、包あん機や製パンライン等の受注が増加し、売上は前期を上回る見込み

◆ 事業別業績予想 食品製造販売事業

売上高予想

(百万円) ■ 北米・南米 (オレンジベーカーリー) ■ 日本 (ホシノ天然酵母パン種)



北米・南米 (オレンジベーカーリー)

- 終売先の発生により上期は減収となった
- 新規先への新商品提案営業を強化し下期での回復を図る

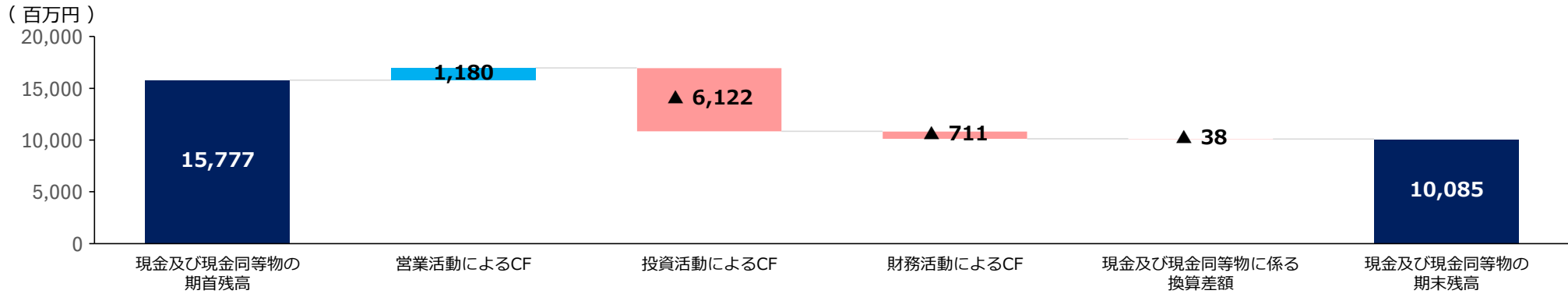
日本 (ホシノ天然酵母パン種)

- 各種展示会への出展、大口顧客への接触強化により拡販につなげる
- 製品講習会や見込客向け個別提案会の実施により売上増加を図る

◆ 連結貸借対照表サマリー

(百万円)	2025年3月期 (2025年3月31日)		2026年3月期上期 (2025年9月30日)				
	金額	構成比 (%)	金額	構成比 (%)	増減額	増減率 (%)	主な増減要因
資産合計	49,242	100 %	50,078	100 %	836	1.7 %	—
流動資産	29,073	59.0 %	24,033	48.0 %	▲5,040	▲17.3 %	● 現金及び預金の減少 (オレンジベーカー新工場)
固定資産	20,168	41.0 %	26,044	52.0 %	5,876	29.1 %	● 有形固定資産の増加 (オレンジベーカー新工場)
負債合計	10,527	21.4 %	10,056	20.1 %	▲471	▲4.5 %	—
流動負債	8,867	18.0 %	8,495	17.0 %	▲372	▲4.2 %	● 未払い法人税等の減少 ● 前受金の減少
固定負債	1,660	3.4 %	1,561	3.1 %	▲99	▲6.0 %	● 長期借入金の減少 ● リース債務の減少
純資産合計	38,715	78.6 %	40,021	79.9 %	1,306	3.4 %	● 利益剰余金の増加 ● 為替換算調整勘定の増加
負債純資産合計	49,242	100 %	50,078	100 %	836	1.7 %	—

◆ 連結キャッシュ・フローサマリー



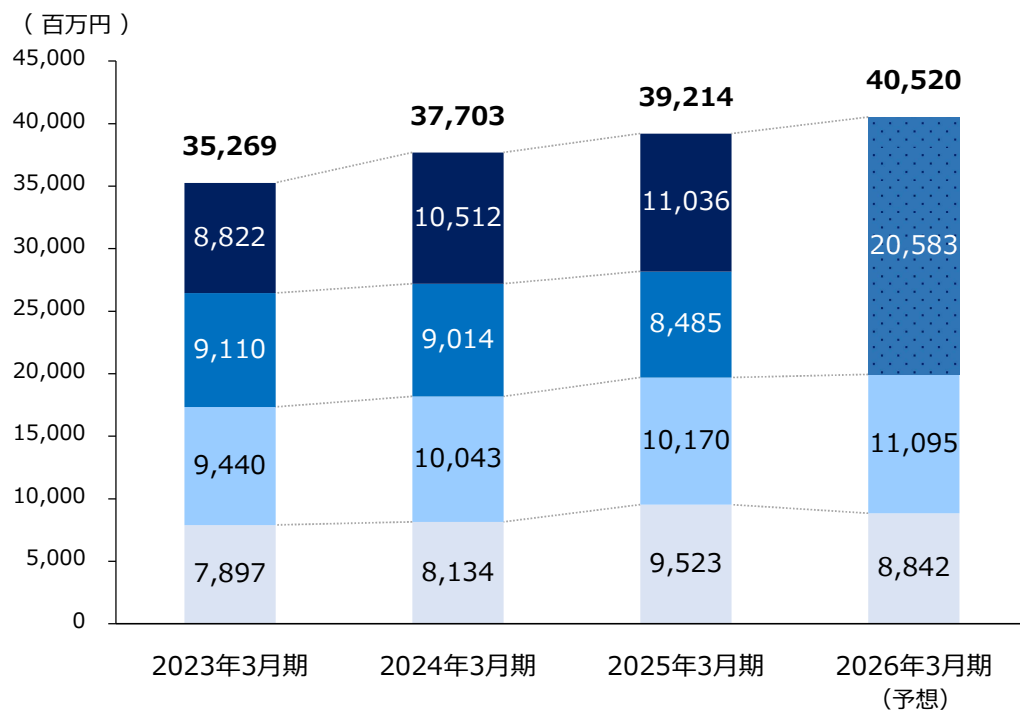
(百万円)	2025年3月期上期	2026年3月期上期	主な増減要因
現金及び現金同等物の期首残高	13,591	15,777	—
営業活動によるCF	1,824	1,180	● 税金等調整前中間純利益 2,556 ● 減価償却費 771 ● 法人税等の支払額 ▲1,118
投資活動によるCF	▲928	▲6,122	● 有形固定資産の取得 ▲5,865 ● 無形固定資産の取得 ▲254
財務活動によるCF	▲662	▲711	● 長期借入金の返済 ▲170 ● 配当金の支払額 ▲618
現金及び現金同等物に係る換算差額	▲334	▲38	—
現金及び現金同等物の増減額	▲101	▲5,692	—
現金及び現金同等物の期末残高	13,490	10,085	—

◆四半期毎の売上高・営業利益推移

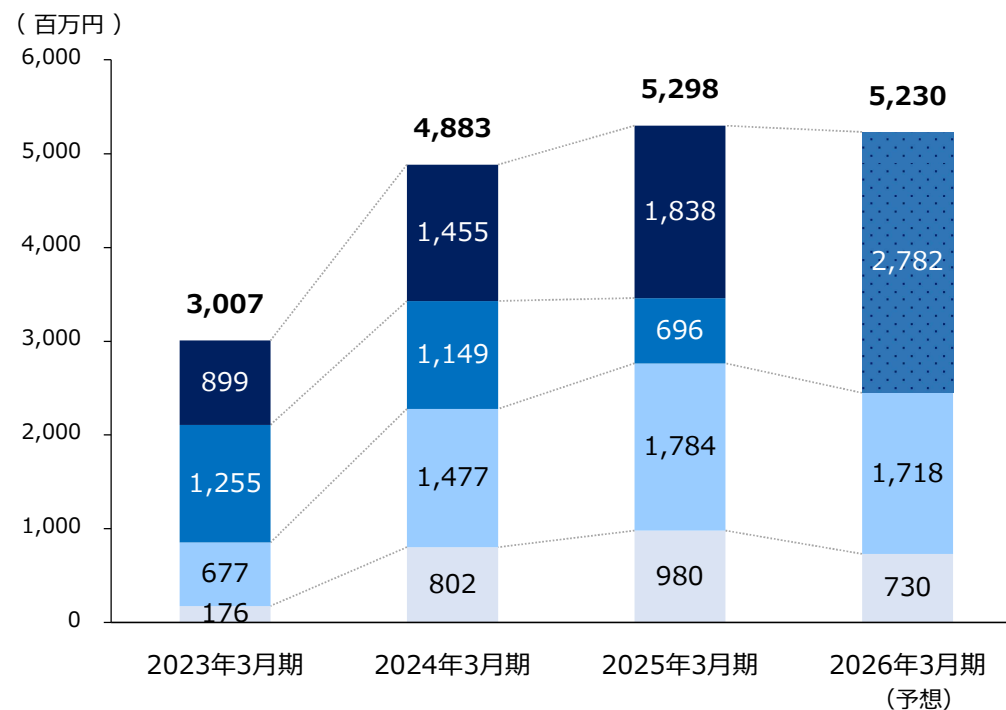
- 2Q（7月－9月）売上高は製パンライン等の販売が好調であり前期比9.1%増加、下期の受注もほぼ確保できている状況。
- 下期の売上高予想が上期を上回る見込みであり、下期の営業利益も上期比増益となる見込み。

1Q 2Q 3Q 4Q 下期予想

売上高



営業利益





《 社名の由来 》

レオン自動機の「レオン」は、レオロジー（流動学）に由来します。レオロジーとは、粘性や弾性の流動を解明する科学であり、当社の創業者（名誉会長 林虎彦）が、レオロジーを応用し、世界初の包あん機を開発したことから名づけました。

【 免責事項 】

本資料の将来的予測に関する業績・事業計画などは資料作成時点で入手可能な情報に基づき作成したものであり、潜在的风险や不確実性を含んでおります。そのため、実際の業績・財務状況は今後の経済動向・市場の変化など様々な要因により大きく異なる可能性があります。